米代新報

発行所
秋田県鹿角市花輪字上中島195番地　〒018-5201
㈱米代新報社
TEL 23-2911(代)
FAX 23-2912

鹿角民話の会創立30周年・花輪図書館創設100周年　記念事業

八郎太郎三湖伝説リレー語り

小中高校生と会員　世代を超え語り継ぐ

語りを披露する小学生の柳舘さん（右）と成田さん（コモッセ）

鹿角市立花輪図書館（小林光代館長）と鹿角民話の会「どっとはらえ」（北村正人会長）共催の「子どもとともに語りつぐ　八郎太郎三湖伝説」が26日、コモッセ文化ホールで開かれた。地元の小中高校生と民話の会会員が八郎太郎にまつわる物語全7話をリレー形式で語る催しで、観客約60人が観覧。十和田湖と八郎潟、田沢湖を結ぶ「三湖伝説」が一挙に語られる機会は貴重とあって、観客は壮大な物語をじっくり堪能した。

鹿角は伝説と民話の宝庫。同会は1993年の結成以来、口承による無形民俗文化財とも言うべき民話や伝説の普及と継承を目的に活動を繰り広げている。

会の創立30周年の節目に「伝説や民話を若い世代に繋ぎ、末長く語り伝えられるように」との願いを込め、児童、生徒たちの参加を企画。今年、創設100周年を迎えた市立花輪図書館の記念事業「語りと朗読の2日間inコモッセ」の一環として開催した。

物語と語り部は、▽八郎太郎龍となる＝柳舘希美（大湯小3年）▽南祖坊との闘い＝成田亜依理（同）▽鹿角の神々との争い＝坂本環子（八幡平中2年）▽七座を追われた八郎太郎＝山口志仁（花輪高3年）▽八郎潟の主になった八郎太郎＝丸岡孝文（会員）▽田沢湖の辰子＝田中喜美子（同）▽八郎太郎と辰子姫＝石坂久夫（同）―の7話、7人。

開会行事で小林館長は「民話の会の皆さんは貴重な民話・伝説を次代につなげる活動をしており、その熱心な姿は世代と時を超え、古里の文化を繋ぐ暖かさとたくましさの光景そのもの」と会をたたえ、北村会長は「我々は、ただ伝説やむがしっこを研究したり語るのではなく、その語りを次世代に受け継ぐことを大きな目的にしている。きょうは、全員で精一杯語らせていただく。最後までごゆっくりお聞きいただきたい」と呼び掛けた。

物語は、十和田草木の保田（ぼった）で生まれた八郎太郎が、掟を破り仲間の分までイワナを独り占めして食べてしまったことから龍に変化。十和田山山頂に湖をつくり住むようになったが、闘いに敗れ住み家を追われると、北秋田市や三種町、潟上市、男鹿市など県北一円に足跡を残し、田沢湖の辰子姫と結ばれるまでの壮大な内容。

語り部は全員、作務衣姿でステージに上ると、小学生2人は朗々と、中高校生は登場人物の感情を語りに乗せて、会員たちは情緒豊かに八郎太郎の波瀾万丈の物語を語り聞かせた。

小学3年から約10年、語り部を続けている花高3年の山口君は「鹿角の民話・伝説はゆかいなものや悲しい物語など幅広いジャンルがあり、その中で反応を肌で感じながらいかにお客さんを楽しませられるか、感動させられるか考えて語るのが本当に楽しい。八郎太郎の物語を語るのは、今回が初めてだが、地元にこうした壮大な物語が語り継がれている中で、自分が語る側として伝えられていることをすごく誇らしく思う」と笑みを見せた。